

蓮代寺校下のまいぶんマニュアル



ぜひ授業で
紹介してほしい
ポイント！



地形の説明

☆☆蓮代寺校下ってこんなところ！☆☆

地形／蓮代寺校下のおもな地形は日本海側の平地を

のぞむ小高い丘陵です。ここは古墳時代後期から平安時代にかけて、

製陶（やきものづくり）や製鉄（鉄づくり）が盛んだった大工業地帯です。

年表に登場する遺跡／^{みなみかがせいてつ}南加賀製鉄遺跡群（蓮代寺町ほか木場・粟津・那谷・矢田野校下）

おもな時代は飛鳥時代～平安時代。教科書の小単元は「天皇中心の国づくり」～「貴族の暮らし」。

ポイント①＝弥生時代に大陸から伝わった鉄は全国へと広まり、いよいよ小松でも飛

鳥時代頃から本格的な製鉄が始まりました。

ポイント②＝蓮代寺校下では蓮代寺ガッシュウタン遺跡（飛鳥時代）と蓮代寺ム

コンヤマ遺跡（平安時代）で、砂鉄から高純度の鉄を取り出す製鉄

炉や燃料用の炭窯が見つっています。

※製鉄については普及冊子「こまつ原始・古代のものづくり」をご覧ください。

蓮代寺校下の遺跡



WEB版ものづくり冊子

年表未登場の重要な遺跡／^{がよう}蓮代寺瓦窯（蓮代寺町）

おもな時代は江戸時代。

ポイント①＝小松城や金沢城で使われた「いぶし瓦」を焼い

ていた窯跡。

ポイント②＝加賀前田家三代・^{まえだとしつね}前田利常が小松城にいた頃

（1640～1658年）に蓮代寺村で瓦を焼かせたこと

（『三州名所記』）や、金沢城二の丸再建時（1809

～1810年）に蓮代寺村の瓦が使われたこと

（『御造営方日並記』）が文献に残っています。



蓮代寺瓦窯出土の瓦



遺跡の位置図（地図情報サービス「こまつ」からも閲覧できます）

蓮台寺村よき瓦土有、利常公
小松御在城の内、矢野所左衛門
に被仰付、小屋を掛ヶさせ瓦工忠
衛門棟梁にて、瓦をやかせ多く出
来す。

『三州名所記』より

『新修小松市史』資料編3（P.141）